スカート丈の経年変化 に関する調査と解析

会 員 内 山 生*
 〃 熨 斗 秀 夫
 石 井 寛
 福 川 正 樹

1. はじめに

被服の素材、色柄、形態とそれらの組合せには流行が見られるが、流行現象として確認されるのは事後もしくは、流行がかなり進行してからのことである。流行現象がもし事前に、適当な時点で予測できれば、生産、流通、消費の各セクションに大きい利益をもたらす。たとえば生産、流通業者にとっては、適確な企画によってファッション リスクを回避することができるし、消費者は合理的購買行動を取ることができる。従来から生産、流通、服飾デザイナーなどのそれぞれの立場から流行予測はなされてきたが、個人個人の経験則や主観的判断根拠に基づくため、客観的説得性に乏しく、予測適中率も十分とは言にくい。流行を予測するための方法としては、いろいろのものがあろうが、基本的には過去の実態把握がまず正しくされていることが前提となると考えられる。この意味において、流行すなわち変化の推移をもっとも簡単に表現できる対象としてスカート丈を取上げ、その時間経過に伴う変化の実態を、本報は調査することとした。

2. 研究の目的

目的は3つに集約でき、目的ごとに調査研究の意図を述べる。

2.1 過去30年間のスカート丈の年代順変動調査

スカート丈の年代別推移を示す文献¹⁾はあっても、調査対象や調査方法についての説明がないため、資料と

* S. Uchiyama, H. Noshi, Members: H. Ishii, M. Fukukawa,
 京都工芸繊維大学 繊維学部

A Study on the Variation of Skirt Length in the Time Series.

By Sei Uchiyama, Hideo Noshi, Hiroshi Ishii and
 Masaki Fukukawa,

*Kyoto University of Industrial Arts and Textile
 Fibers, Kyoto.*

The variation of a skirt length from 1955 to 1979 was investigated. The time series data were analyzed by a spectra analysis method.

The results were summarized as follows.

(1) A skirt length slowly varies in the time series. The variation curve is comparatively continuous. Particularly, the speed to reach short skirts is slower than that to reach long skirt. The periodic time is about 24 years. A shorter variation of several years, however, is also recognized.

(2) The individual difference of a skirt length in the same year is clearly recognized since 1975, that would be an evidence of the development of one's individual personality in wear fashion.

(3) There is no seasonal fluctuation and trend of a skirt length.

(4) Assuming that skirt length has a cyclical fluctuation, the next year of a mini-skirt will be 1985.

(Received December 16, 1980)

して利用しにくい。本研究ではトップ モードとしてのスカート丈だけでなく、マス ファッションとしてのスカート丈を調査対象とする。このため週刊誌の街頭スナップ写真とニュース写真を原資料として利用する。

2.2 スカート丈変動の時系列解析

スカート丈の変動原因には自律的内部要因と他律的外部要因が考えられる。自律的とは長短2方向に変動が循環的に発現すると考えられるもので、いわゆる「あき」がきて変わった状態を求めることに起因する変動と考えることができる。他律的とは不規則変動を意味し、デザイナーによる「作られたファッション」や内容不明な社会的要因などによるものである。このほか、傾向変動や季節変動も予想され、本報告では原データを解析してスカート丈の変動の特性と内容とを考察する。

2.3 今後の推移の予測

未来予測には一般的に規範的方法と外延的予測とがある。エネルギー、軍事、婦人の地位向上など未来に関する規範の問題もあるが、この報告では未来は過去の延長上にあると考える外延的方法によって、スカート丈の今後の推移を予測する。

3. 研究方法と結果の考察

3.1 スカート丈けの時系列データ

「週刊朝日」の昭和25年1月から昭和54年12月までを資料とし、月あたり1枚のスナップ写真を採集する。選択の条件はスカートを着装した若い女性の立位全身像とした。年・月によっては選択の条件に適する写真がなく、総枚数は331枚になった。この写真からスカート丈けを調べるために、つぎの仮説を設ける。スカートのファッション要素としての丈けは感覚的であり、それは股の高さに対する、股の位置からスカート下端までの長さの比で表わされる。」この仮説における股の高さは身長との間に相関が認められ²⁾、さらに股部からスカート下端までの長さを、スカート下端から足裏までの距離に置換えれば、見た感じとしてのスカート丈けの長短は $l:h$ の示数で表現できる。ただし l はスカート下端から足裏までの距離、 h は身長とする。この $l:h$ の値と下肢の水平部位とのおよその対応を図1に示す。図のよ

図1 ($l:h$) の値と下肢対応点

うに l/h が大きいとスカートは短く、 l/h が小さいとスカートは長いことを示す。カメラの水平位置や被写体との距離、角度による影響は無視した。表1に逐年の h , l , l/h の値を示す。

3.2 スカート丈け示数の時系列解析

A. 年次別平均値による考察

表1の l/h の値を各年ごとに平均した値を、図2に実線で示す。点線は各年ごとの最大値と最小値の幅の年次順推移である。一点鎖線は比較のために、文献¹⁾から求めた l/h の値を示す。図2からつぎのことがわかる。

① スカート丈けの変化は突発的でなく、比較的長年月をかけて ゆるやかに連続的な変化をする。

② この間に数年を単位とする短周期のサイクルが観察される。

③ 流行の先端を示していると考えられる服飾文献¹⁾から抽出したスカート丈けの推移も、週刊誌からの測定値とほぼ同じ変化を示す。しかし前者は後者よりも1~2年の先行的傾向が見られ、さらに短サイクルの変動幅がやや大きい。

④ マリー クワントがミニ スカートを発表したのは昭和40年であり、ミニ最盛期の44~45年に至るまでに4~5年を要している。

⑤ 年ごとのデータの最大値と最小値の差、レンジは昭和50年から急激に大きくなり、スタイルの個性化・多様化時代の到来といわれた年次とほぼ符号している。しかし53年からレンジはやや小さくなっている。

B. 季節変動と傾向変動

季節(夏・冬)でスカート丈けに差が見られるか否かを検討するために、各年ごとに8月と2月との l/h の値を比較した。8月が大きい場合は符号+、2月が大きい場合は符号-とし年代順に並べると、表2のようになる。表中0の値は8月と2月と値に差のない場合である。なお該当月に l/h の値が欠けるときは、その月の前後の月の値で代用した。表2に示すように、冬の方がスカート丈けが短い(符号-)年が13回、逆の場合が10回、差のない年が7回で、季節の変動があるとは認めがたい。ただし52年以降3年続いて冬が夏より短くなっていることが注目される。

つぎにスカート丈けの時系列における傾向曲線を求めるために、図2の実線で結んだ、それぞれの値を用いて単純移動平均法を適用した。時系列の長さは $n=30$ 、移動平均をとる期間の項数を $k=5$ として、次式から各区間の移動平均値を求めた。

$$\text{一般項: } \bar{x}_i = (x_i + x_{i+1} + \dots + x_{i+k-1}) / k$$

$$\text{最終項: } \bar{x}_{n-k+1} = (x_{n-k+1} + x_{n-k+2} + \dots + x_n) / k$$

この移動平均値を対応する期間の中央時点に、それぞれプロットしたグラフを図3に示す。

図3からスカート丈けが短くなるときは ゆるやかに長年月をかけて推移し、逆に長くなるときは比較的急激に変化することが、過去30年間のデータは示していることがわかる。もしスカート丈けの傾向曲線がサインカーブに近似しており、今後とも過去と同じパターンが繰返されると仮定して、その推移を点線であらわすと図3のようになる。このとき、その周期は $L=28$ 年で、スカート丈けの短い期間は $l_1=12$ 年、長い期間は $l_2=16$ 年になる。この場合スカート丈けの長短の区別は図3の $X-X'$ 線で示す $l/h=0.25$ を境界とした。この値は図1の膝部に相当する位置である。したがって短から長へ、あるいは長から短へと変化し始める時点は、上記

表1 スカート丈けの示数表

年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h
S.25				S.26				S.27				S.28				S.29			
1	9.2	1.7	0.18	1	10.3	1.4	0.14	1	—	—	—	1	12.5	1.2	0.10	1	12.1	1.0	0.08
2	9.3	1.6	0.17	2	11.0	1.7	0.15	2	—	—	—	2	5.7	0.8	0.14	2	7.3	1.3	0.18
3	4.1	0.6	0.15	3	10.0	1.6	0.16	3	7.5	1.0	0.13	3	8.1	1.4	0.17	3	4.2	0.4	0.10
4	11.5	1.7	0.15	4	9.9	1.5	0.15	4	—	—	—	4	6.3	0.9	0.14	4	12.1	1.5	0.12
5	21.9	2.1	0.10	5	—	—	—	5	5.1	0.9	0.17	5	3.0	0.4	0.13	5	8.9	1.6	0.18
6	19.5	2.0	0.10	6	2.1	0.3	0.14	6	5.8	1.0	0.17	6	6.4	0.6	0.09	6	4.8	0.7	0.15
7	11.0	1.6	0.15	7	8.5	1.7	0.21	7	16.0	2.0	0.13	7	5.2	0.7	0.13	7	13.6	2.2	0.16
8	19.5	2.0	0.10	8	8.8	1.6	0.18	8	—	—	—	8	6.0	0.9	0.15	8	9.4	1.1	0.12
9	3.8	0.9	0.18	9	10.3	1.1	0.11	9	4.2	0.5	0.12	9	4.9	1.1	0.22	9	7.3	1.0	0.14
10	13.7	1.8	0.13	10	—	—	—	10	17.6	3.0	0.17	10	15.5	1.8	0.12	10	9.7	1.1	0.11
11	8.2	1.2	0.15	11	12.2	1.9	0.16	11	5.8	0.8	0.13	11	8.1	1.5	0.19	11	7.8	1.0	0.13
12	14.0	2.3	0.16	12	15.2	2.5	0.16	12	—	—	—	12	27.1	4.1	0.15	12	1.9	0.3	0.16
S.30				S.31				S.32				S.33				S.34			
1	—	—	—	1	10.2	1.9	0.19	1	4.2	0.9	0.21	1	15.3	3.0	0.20	1	9.2	1.8	0.20
2	10	1.0	0.10	2	—	—	—	2	5.4	1.0	0.19	2	5.2	0.9	0.17	2	10.3	2.3	0.22
3	—	—	—	3	10.3	2.0	0.19	3	9.4	1.2	0.13	3	11.8	2.0	0.17	3	4.5	1.0	0.22
4	3	0.3	0.10	4	10.2	1.0	0.10	4	10.6	1.8	0.17	4	9.8	2.0	0.20	4	17.5	3.3	0.19
5	—	—	—	5	13.5	1.6	0.12	5	7.3	1.5	0.21	5	—	—	—	5	9.3	2.0	0.22
6	8	1.3	0.15	6	5.9	0.7	0.12	6	15.1	3.0	0.20	6	—	—	—	6	11.4	3.0	0.26
7	5	0.8	0.16	7	7.3	0.9	0.12	7	8.4	1.5	0.18	7	1.4	0.2	0.14	7	8.7	2.0	0.23
8	6	0.9	0.15	8	9.7	1.7	0.18	8	9.8	1.4	0.14	8	5.1	1.1	0.22	8	10.0	1.8	0.18
9	6	0.9	0.13	9	5.5	0.9	0.16	9	7.7	1.2	0.16	9	14.4	3.3	0.23	9	13.1	2.9	0.22
10	20	4.6	0.13	10	5.2	0.8	0.15	10	11.1	2.3	0.21	10	6.2	1.4	0.23	10	4.7	1.2	0.26
11	13	2.3	0.17	11	15.6	2.2	0.14	11	6.4	1.2	0.19	11	8.3	1.6	0.19	11	10.8	1.8	0.17
12	14	1.9	0.13	12	12.2	2.5	0.20	12	3.2	0.6	0.19	12	8.8	1.2	0.14	12	5.3	1.2	0.23
S.35				S.36				S.37				S.38				S.39			
1	6	1.3	0.20	1	17.4	3.9	0.22	1	19.0	4.5	0.24	1	14.2	3.8	0.27	1	11.5	2.4	0.21
2	10	2.3	0.21	2	3.8	0.8	0.22	2	17.1	4.2	0.25	2	9.0	2.2	0.24	2	12.8	2.6	0.20
3	8	1.9	0.23	3	17.9	3.8	0.21	3	21.8	5.4	0.25	3	17.4	3.9	0.22	3	17.7	3.7	0.21
4	8	2.1	0.25	4	—	—	—	4	25.7	6.4	0.25	4	11.4	2.4	0.21	4	12.4	2.5	0.20
5	14	3.1	0.21	5	23.5	4.8	0.20	5	12.3	2.7	0.22	5	14.4	3.5	0.24	5	8.5	1.9	0.22
6	16	3.7	0.22	6	6.8	1.6	0.24	6	23.5	6.0	0.26	6	18.2	4.4	0.24	6	5.3	0.9	0.17
7	22	4.8	0.21	7	19.5	3.3	0.17	7	8.5	2.0	0.24	7	17.5	4.1	0.23	7	18.4	3.9	0.21
8	17	3.7	0.21	8	15.9	4.4	0.27	8	25.5	5.9	0.23	8	5.4	0.8	0.15	8	12.8	2.9	0.23
9	15	3.0	0.19	9	9.2	1.7	0.18	9	21.5	4.2	0.20	9	20.8	5.2	0.25	9	11.0	2.8	0.25
10	5	1.5	0.26	10	8.8	1.9	0.22	10	9.9	2.2	0.22	10	6.6	1.4	0.21	10	11.9	2.4	0.20
11	22	5.2	0.23	11	5.7	1.2	0.21	11	10.6	1.8	0.17	11	5.9	1.2	0.21	11	11.9	2.5	0.21
12	15	4.0	0.26	12	23.8	5.1	0.21	12	11.1	1.9	0.17	12	11.5	2.6	0.23	12	—	—	—
S.40				S.41				S.42				S.43				S.44			
1	22.7	5.2	0.23	1	23.2	5.6	0.24	1	13.9	3.5	0.25	1	11.8	3.0	0.25	1	8.1	2.0	0.25
2	11.9	2.0	0.17	2	20.7	6.6	0.32	2	24.0	6.2	0.26	2	—	—	—	2	14.8	4.8	0.32
3	12.8	3.0	0.23	3	13.6	3.7	0.27	3	20.6	6.3	0.31	3	—	—	—	3	22.7	8.1	0.36
4	14.5	3.3	0.23	4	18.8	4.5	0.24	4	18.8	6.0	0.32	4	8.8	2.4	0.27	4	7.0	2.2	0.31
5	24.1	6.4	0.27	5	20.4	5.4	0.26	5	23.0	6.0	0.29	5	18.2	3.4	0.18	5	5.9	2.0	0.34
6	23.1	6.1	0.26	6	22.0	5.8	0.26	6	21.2	5.8	0.26	6	19.3	4.6	0.24	6	12.8	4.3	0.34
7	23.2	5.7	0.25	7	17.7	6.0	0.34	7	18.1	6.2	0.34	7	3.9	1.2	0.31	7	9.5	2.5	0.26
8	21.8	6.1	0.28	8	17.5	5.3	0.30	8	22.5	5.8	0.26	8	3.5	1.0	0.29	8	—	—	—
9	23.3	5.8	0.25	9	22.7	6.4	0.28	9	18.1	6.2	0.34	9	10.1	3.3	0.33	9	13.1	4.7	0.36
10	23.9	6.0	0.25	10	21.8	5.3	0.25	10	23.3	6.0	0.26	10	20.6	6.7	0.33	10	16.7	5.6	0.34
11	22.3	5.1	0.23	11	19.9	6.4	0.32	11	23.8	6.8	0.29	11	—	—	—	11	13.1	4.2	0.32
12	—	—	—	12	22.8	6.4	0.28	12	13.5	4.4	0.33	12	5.7	1.6	0.28	12	—	—	—

(表1 つづき)

年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h	年・月	h(cm)	l(cm)	l/h
S.45				S.46				S.47				S.48				S.49			
1	6.8	2.4	0.35	1	14.6	5.7	0.39	1	23.4	7.2	0.31	1	5.9	1.9	0.32	1	4.2	0.9	0.21
2	16.4	5.6	0.34	2	10.0	3.2	0.32	2	6.7	2.1	0.31	2	9.0	3.0	0.33	2	6.4	1.3	0.20
3	15.0	5.6	0.29	3	9.3	2.8	0.30	3	20.6	5.7	0.28	3	15.8	5.4	0.34	3	6.7	1.4	0.21
4	15.0	4.6	0.30	4	20.6	7.0	0.34	4	20.3	4.6	0.23	4	9.6	2.9	0.30	4	—	—	—
5	8.0	3.6	0.45	5	11.6	4.2	0.36	5	6.5	2.0	0.31	5	4.3	1.3	0.30	5	—	—	—
6	16.0	5.7	0.36	6	4.6	1.5	0.33	6	29.5	8.9	0.30	6	—	—	—	6	2.6	0.7	0.27
7	10.2	3.9	0.38	7	18.8	6.7	0.36	7	20.9	6.4	0.31	7	16.4	5.4	0.33	7	6.1	1.5	0.25
8	13.1	4.2	0.32	8	10.2	3.0	0.30	8	6.4	1.9	0.30	8	—	—	—	8	—	—	—
9	10.4	3.9	0.38	9	4.7	1.6	0.34	9	5.7	1.2	0.21	9	6.4	2.2	0.34	9	8.6	2.2	0.26
10	9.6	3.0	0.31	10	19.8	6.5	0.33	10	4.9	1.1	0.22	10	5.2	1.6	0.31	10	—	—	—
11	11.0	3.5	0.32	11	21.7	7.9	0.36	11	10.4	3.2	0.31	11	—	—	—	11	17.3	5.3	0.31
12	20.9	9.5	0.45	12	21.3	7.7	0.36	12	6.5	2.0	0.31	12	17.0	5.5	0.32	12	—	—	—
S.50				S.51				S.52				S.53				S.54			
1	11.5	3.1	0.27	1	2.4	0.3	0.13	1	15.7	2.1	0.13	1	6.0	0.4	0.07	1	8.8	2.1	0.24
2	10.3	3.4	0.33	2	—	—	—	2	3.8	0.5	0.13	2	9.8	0.7	0.07	2	8.4	2.0	0.24
3	17.3	3.2	0.18	3	11.1	1.7	0.15	3	9.9	2.2	0.22	3	7.4	0.8	0.11	3	8.1	1.7	0.21
4	7.3	1.0	0.14	4	5.3	0.7	0.13	4	13.5	5.3	0.39	4	12.9	1.7	0.13	4	7.8	1.6	0.21
5	14.5	3.4	0.23	5	7.3	1.1	0.15	5	8.8	3.2	0.24	5	7.4	1.2	0.16	5	7.9	1.7	0.22
6	10.4	4.4	0.42	6	3.8	0.9	0.24	6	8.8	3.4	0.39	6	6.9	0.8	0.12	6	8.4	1.4	0.17
7	14.2	2.4	0.17	7	3.8	0.4	0.11	7	17.8	6.5	0.37	7	7.8	0.7	0.09	7	4.9	0.9	0.18
8	17.2	1.8	0.10	8	4.8	0.7	0.15	8	6.8	0.7	0.10	8	6.4	0.2	0.03	8	7.2	1.6	0.22
9	12.5	1.6	0.13	9	12.1	2.7	0.22	9	10.0	1.5	0.15	9	20.0	3.0	0.15	9	4.5	1.0	0.22
10	17.3	4.8	0.28	10	14.3	2.1	0.15	10	7.7	2.3	0.30	10	9.6	1.9	0.19	10	6.1	1.3	0.21
11	3.2	0.8	0.25	11	13.2	2.9	0.22	11	7.8	3.0	0.38	11	6.8	1.2	0.18	11	6.2	1.8	0.29
12	5.8	1.0	0.17	12	—	—	—	12	8.9	2.2	0.25	12	6.8	1.5	0.22	12	6.5	1.2	0.18

図2 スカート丈とレンジの逐年推移

l_1 , l_2 の値の約 $1/2$ のところになる。

C. コレログラムとパワー スペクトル

図2の実線で表される時系列波形の特性を知るために、コレログラムを作る。系列相関係数 r/k の計算は、

データ数 $N=30$ なので、 $k=20$ までとして次式の近似式で行った。

$$r_k = \left(\frac{1}{N-k} \sum_{t=1}^{N-k} x_t x_{t+k} - \bar{x}^2 \right) / S^2$$

図3 移動平均法による傾向曲線

表2 スカート丈けの季節変動のサイン テスト表

年代	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
符号	-	+	0	+	-	+	0	-	+	-
年代	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
符号	0	+	-	-	+	+	-	0	+	+
年代	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
符号	-	-	0	0	+	-	0	-	-	-

十の個数10, 一の個数13, 0の個数7

ただし $\bar{x}$ は系列平均値, S^2 は系列分散である。
計算結果を図4に示す。

図4 コレログラム

図4のコレログラムの形から判断すると、完全に周期的とはいえないが、完全に偶然的変動とも言いにくい。恐らく自律的内部要因に基づく自己回帰型変動³⁾と、他律的不規則変動との組合わさったものと予想されるが、コレログラムからは、それ以上の情報は得られない。

上述の各種の変動が起るのは、なんらかの力が働くためと考えられ、その力の大きさが周波数別にスペクトルとして表現できれば、さらにくわしい解析ができる。よって、つづいてパワー スペクトルを計算する。計算は前節で求めた系列相関係数を用いて次式³⁾によって行う。

$$\overline{P}(S/2\Delta th) = \Delta t \left\{ r(0) + 2 \sum_{l=1}^{h-1} r(l\Delta t) \cos(2\pi \cdot Sl/2h) + (-1)^S r(h\Delta t) \right\}$$

ただし、 $\overline{P}(S/2\Delta th)$ は周波数が $(S/2\Delta th)$ のときのパ

ワーであり、

$$S = 0, 1, 2, \dots, h, \Delta t = 1$$

$$l = 1, 2, \dots, h-1 \text{ である。}$$

h は相関係数の精度と計算の簡便さを考えて、 $h=12$ とし、系列相関係数である $r(l\Delta t)$ の値は前節のコレログラムで求めた値を用いた。計算結果を図5に示す。図

図5 スカート丈けのパワー スペクトル

5から、24年の周期をもつ波動がスカート丈けにおいては支配的なことがわかる。

4. 今後の推移の予測

スカート丈けの長短にかかわる因果関係は不明である。このような場合の予測は過去の時系列データの解析に頼るよりほか方法はないと思われる。さきにも述べたように時系列変動は、傾向変動(T)、循環変動(C)、季節変動(S)、不規則変動(I)の4つの要素から構成されると考えられる。しかしスカート丈けに関しては、3節で見たように季節の変動はなく、傾向変動も一方的上昇もしくは下降傾向の意味に解釈すれば、傾向変動も考慮しなくてもよい。したがって、スカート丈けの変動モデルは循環変動と不規則変動とのみからなる次の形で示すことができる。

$$X(t) = C(t) + I(t)$$

$C(t)$ と $I(t)$ との推定式が与えられれば、 $X(t)$ を求めることができる。これらの推定式を求めるには、変動

周期に比較して、かなり長期間の観察時間が必要となる。スカート丈の変動周期と本研究の観察期間とは、図2に見られるように接近しており、しかも昭和40年から現われるミニスカートはそれ以前にはなかった現象である。これらの理由から $C(t)$ の推定式を求めることも、その結果から $I(t)$ を推定し両者を分離することも実際には困難である。したがってスカート丈の今後の推移についての予測は数理的方法でなく、仮定に基づく変動モデルを想定し、今後の推移もそれに従うとして予想をたてることにする。

仮定1. スカート丈には内生的循環変動が存在する。

仮定2. 外生的不規則変動も存在する。

仮定3. 外生的変動は、それ以降の循環過程においてはその体系内に吸収され、内生的変動として作用し続ける³⁾。

上記の仮定1と2から、図2をつぎのように解釈する。昭和30年からスカート丈は内生的循環変動で上昇過程に入っている。昭和40年のマリークワントのミニスカート発表が外生的圧力となって、スカート丈の短縮化を加速し、昭和45年でピークに達した。昭和45年以後、再び循環変動に基づく下降傾向が表われ現在に至っていると考えられる。

前述の仮定3により、昭和45年前後のスカート丈短縮化のピークは内生的要因として今後作用し、図5に示す解析結果から変動の主サイクルは周期24年前後であらうと考えられる。

この結果から、図2に基づいて予想すると、昭和49年からスカート丈変動サイクルは平均より長い区間に

入っており、半周期の12年後昭和60年頃からミニ化の時代になると思われる。もし、それまでにデザイナーや売り手による外部からの強いパワーがあった場合は、この期間は加速もしくは減速されると考えられる。さらに図2の下方に示すスカート丈の同一年次内のばらつきが昭和50年からは大きくなっており、昭和45年前後にみられたような画一的ミニ化現象でなく、個人差による幅をもったものになることも予想される。

5. まとめ

過去30年間のスカート丈の変動を調査し、つぎの解析結果を得た。

① スカート丈はゆるやかな連続的变化をする。

特に短くなるときは、長くなる場合に比べて変化の速度が遅い。この変動周期は約24年である。

② 数年を周期とする短サイクルの波動もみとめられる。

③ スカート丈の個人差は昭和50年から拡大していることが明らかに認められる。

④ スカート丈には夏冬の差のような季節変動はない。また物価や死亡率のような一方的上昇、あるいは下降のような顕著な傾向変動も見られない。

⑤ スカート丈に循環変動を仮定すれば、昭和60年頃からミニ化現象が起ることが予想される。

文 献

- 1) たとえば、田中千代編、服飾事典、同文書院('77)
- 2) 既製衣料品サイズのすべて、J・I・S衣料サイズ推進委員会編('80)
- 3) たとえば、応用統計ハンドブック、養賢堂('78)

(昭和55年12月16日受理)

＜快適さに関する国際会議の案内＞

First International Conference on Human Comfort

The first international Conference on Human Comfort will take place in August 1981 in Portugal. All aspects of the subject will be included in the programme, which will consist of a mixture of lectures, given by internationally-recognised experts, and discussion periods. Topics to be covered in lectures include psychological aspects (such as privacy, social distance, spiritual comfort), physiological aspects (such as thermoregulatory and sensory mechanisms, thermal and noise stress) and physical aspects (such as the contributions of textile, clothing, design or transportation factors). In addition, up to twenty specific areas of interest (depending on the interests of the delegates) will be examined in depth.

A major purpose of the Conference is to bring together specialists in a relatively narrow area of interest related to comfort so that they can share their expertise and, in return, learn more about other aspects of human comfort outside their normal professional field. For this reason, it is hoped that all delegates will be willing to contribute a brief presentation to one or more of the discussion sessions.

Further details of the subject matter, information concerning registration, and application forms are available on request from Professor K. Slater, Textile Science Division, University of Guelph, Guelph, Ontario, Canada, N1G 2W1. Accommodation facilities are limited, so attendance is restricted and early application is advised. The deadline for registration is 1st February 1981, and requests will be handled in strict order of receipt.